



2024 年度（令和 6 年度・第 10 期）

# 事業計画書

1. 2024 年度 事業方針
2. 2024 年度 事業計画書
3. 中期計画目標（2025 ビジョン）
4. 2024 年度 活動予算書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

# 1. 2024 年度 事業方針

---

事業方針を『つながる【場】と【人】をさらに提供していくこと』と掲げた 2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、世間の情勢も様変わりしました。

2023 年度より岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の相互交流支援を受託し連携する医療機関が増え、県内各地で出張型交流イベントも実施。徐々に対面での相談や、交流支援・学習支援も増え、LINE 相談の試験運用も開始しました。そこから新たに会おう子どもたちやご家族とも関係性を築くことができました。主催する講演会やシンポジウムにおいても、現地とオンライン併用のハイブリッド開催し、全国の皆さんたちとのつながりの深まりを確認することができました。その足取りは着実に、【場】と【人】をつないでいくことができた 1 年となったのではないのでしょうか。

そして、いよいよ 2025 年に 10 年目という節目を迎える前年となった、今年度 2024 年の事業目標は【高く羽ばたくための、土台を確認する年】としたいと思います。

iPS 細胞の研究者として有名な山中教授が「高く飛ぶためには、思いっきり低くかかむ必要がある」と語った言葉があります。もうダメだと思ったところから、もう一踏ん張りすると新しい展開が待っているという意味を含んだ言葉です。

コロナ禍という、未曾有の状況、病気療養する子どもや家族が最も苦しめられた 3 年間。ポケットサポートも小児科病棟という主戦場がなくなり、病気療養児への支援の在り方を改めて考えさせられ、子どもたちやご家族と会おう場を模索し続けるなど、様々な制約の中、我慢が必要な時間でした。

その時期をしっかりと乗り越え確実に歩みを進めていくことができたのは、他でもない「病気を抱える子どもたちの未来を、共に考えることのできる仲間たちとの輪の広がり」に違いありません。ポケットサポートの土台をしっかりとさせてくれたこの 3 年間は、強固な行政・医療機関・教育機関との関係性、新たなスタッフ、ボランティア、プロボノなど、協力してくださる多くの方々との繋がりが生まれていきました。ここからさらに羽ばたいていくために、地域で病気療養する子どもたちや家族を安心して支えられる土台を改めて確認する 1 年としたいと考え、この事業目標としました。

## 1. 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

まずは新たな土台作りのための大きなステップである、ポケットサポート支援拠点の移転を計画の中に盛り込んでいます。この新拠点を通じて、多様な交流や学び、安心して相談ができる環境づくりを目指します。ボランティア育成はもちろんのこと、昨年度も好評だった外部団体とのコラボ企画を通して、子どもたちが楽しく学びや発見ができる試みも取り入れています。

## 2. 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

岡山県の小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の相互交流支援業務が加わり、「ポケットスペース」の開催日程が増えたことにより、多くの子どもやご家族に対して支援を届けられるようになりました。地域出張型の体験交流イベントについても、幅広い地域での展開が行なわれ、私たちの強みである、ピアサポート、専門職との連携を通じて、ご家族やきょうだいさんたちが「自分らしい家族形成」に繋げていけるような支援を届けたいと思います。

### 3.病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

ポケットサポートが主催する年2回の講演会・シンポジウムに加え、前年度から続きベネッセこども基金との自主事業での全国病気療養児支援パンフレットの作成やコンテンツ制作を通じて、全国に病気療養児支援の必要性を伝えていきます。その他、学会発表や外部講師による講演活動も行っています。

さらに、病気療養児支援の岡山モデル構築を目指して、多職種と支援拡充に向けた取り組みも進めていきます。地域支援ネットワークの構築として、全国の小児慢性特定疾病の支援に関わる行政や団体との連携も深めていきたいと構想しています。

これまで築き上げてきた全ての関係性をさらに強固な土台の礎として、10年目に向けて掲げた中長期計画である【2025年ビジョン】を総括する1年にしていきます。

岡山という地域で病気療養する子どもたちやご家族のため、これらの事業を展開しながらさらに歩みを進め、2024年度も病気を抱える子どもたちが安心して過ごせる社会づくりを、未来を作っていく仲間たちと共に取り組んでいきたいと思えます。

代表理事 三好 祐也



## 2. 2024年度（令和6年度・第10期）事業計画書

### (1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
個別学習支援 (双方向WEB)	自宅療養中や復学初期の子どもに対して支援拠点やICTを活用した学習支援	年間 延べ 50名	小中高校生 延べ50名	随時 支援拠点等	1,500,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	年間 延べ 20名	大学生 延べ100名	年5回 オンライン等	300,000
科学と数学の 対話型体験学習	探究学習プログラムGEMSを活用した学びや発見・考える楽しさを再発見する(MDRT Foundation-Japan 助成)	年間 延べ 30名	小中高校生 延べ50名	年2回 オンライン等	200,000
支援拠点 移転整備事業	事業拡大および支援員増員に伴う支援拠点の移転および環境整備(D&I基金、赤い羽根助成予定)	年間 延べ 30名	利用者 述べ100名	随時 岡山市内	4,000,000
小計					6,000,000

### (2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
ポケットスペース (岡山市)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施(岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業)	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ130名	年間100日 市内3拠点	2,300,000
ポケットスペース (岡山県)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施(岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業)	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ80名	年間80日 県内3拠点	3,200,000
交流イベント (きょうだい含む)	季節に応じた体験交流イベント開催で当事者同士のピアサポート、自分らしい家族形成支援に繋げる	年間 延べ 50名	小中高校生 延べ100名	年5回 オンライン等	1,000,000
キャッシュフロー ゲーム体験活動	将来の職業選択を広げるお金の仕組みキャッシュフローゲーム体験活動(中国労働金庫助成事業)	年間 延べ 20名	小中高校生 述べ50名	年1回 岡山市内現地	300,000
小計					6,800,000

### (3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会に講師派遣病弱児支援について広報、周知活動	年間 延べ 20名	受講者 延べ600名	随時 全国各地	200,000
みんなでつながる フェスティバル	様々な困難を抱える子どもや家族に音楽鑑賞やマジックショーを提供(橋本財団助成)	年間 延べ 50名	小中高生 保護者 延べ100名	年1回 岡山市内現地	700,000
全国病気療養児 支援パンフ及び コンテンツ制作	県外からの相談にも対応できるように全国各地の支援者とのつながりを構築(ベネッセこども基金自主事業)	年間 延べ 50名	教育関係者等 延べ100名	随時 オンライン等	2,000,000
支援者向け スキルアップ研修	病気療養児に携わる支援者向け講演会&ワークショップ開催(田辺三菱製薬手のひらパートナープログラム助成)	年間 延べ 50名	教育・医療 関係者 延べ100名	年3回 県内3会場	1,000,000
小計					3,900,000

事業費合計：16,700,000円

### 3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

## Vision（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

## Mission（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

### 1. 『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように  
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

### 2. 『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう  
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

### 3. 『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どもに関わる人を繋ぐコーディネートを行うと共に  
社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく

## <2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況>

### 1. 『環境をつくる』 取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通じた復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチや ICT 利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の教育機会の提供を目指す(ICT 利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

### 2. 『生きる力を育む』 取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇氣」を持てるようピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいも楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

### 3. 『人や気持ちを繋ぐ』 取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成